

超世代の内科学

- GeneralityとSpecialtyの先へ -

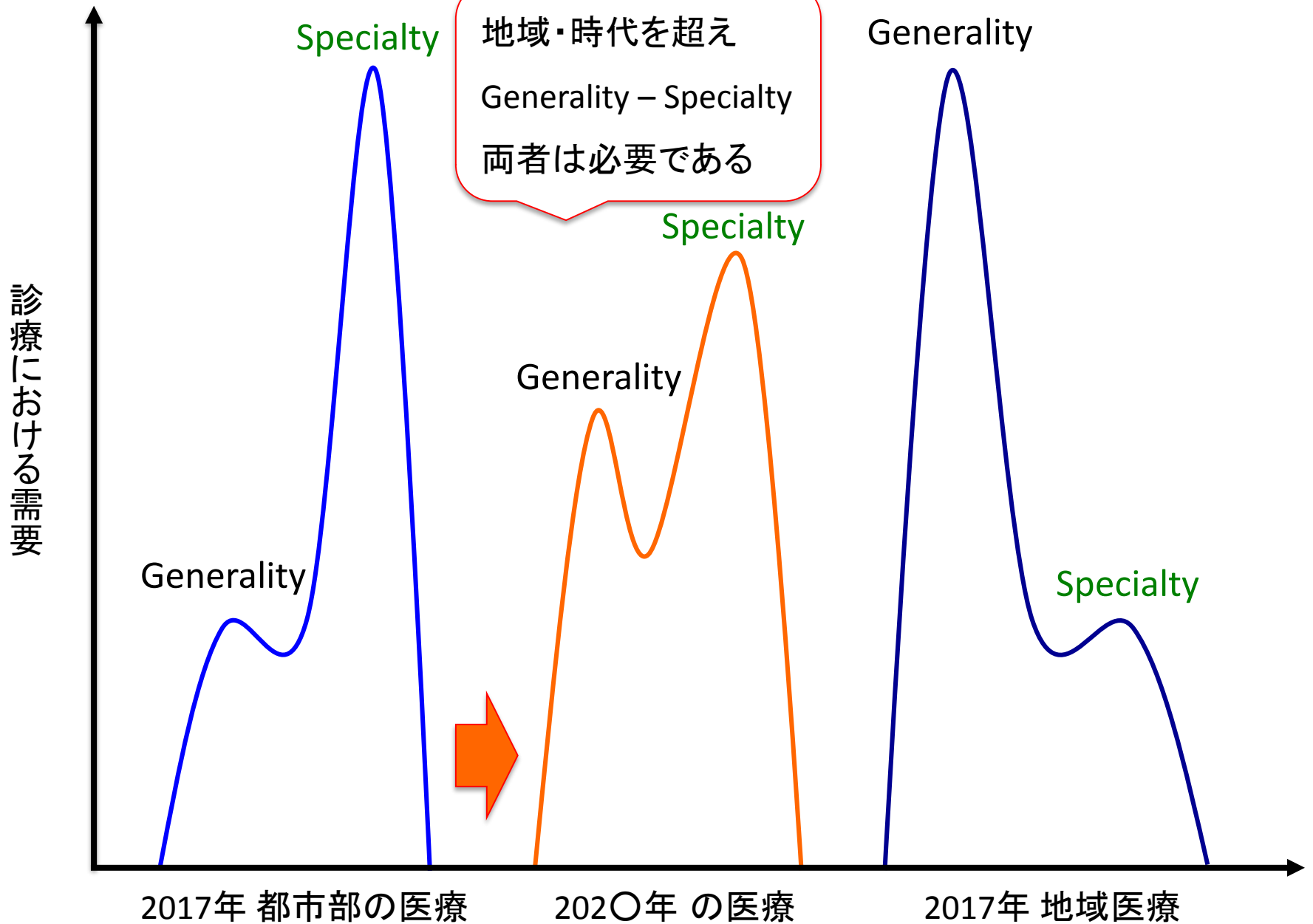
理想の内科医像 医学教育の観点から

自治医科大学地域医療学センター

総合診療部門

松村正巳

Generality・Specialtyの需要



Generality と Specialtyの調和

理想の内科医像- 医学教育の立場から – Generality と Specialtyの調和

- ① 医学教育における背景と課題
- ② 課題への取り組み
- ③ 生涯キャリアからみた Generality と Specialty



相反する因子

医療・医療制度の進歩



超高齢社会

マインド育成
場の問題

相反

キャリア形成の問題

臓器横断的診療マインド
継続育成の視点



多臓器疾患を有する患者に対応で
きる医師へのニーズが増加.

- ・より良い「内科医 (generalist)」
の育成.
- ・「超高齢社会で果たすべき
役割と責務」

内科専門医取得には幅広い分野
での多疾患の経験が必要である.



医療需要・医療システム
機能分化・連携の視点



3次医療機関は高度先進医療
に特化するため効率的な臓器
別縦割医療体制である.

機能分化における連携をどのよ
うに行うかが問われている.

課題

- 学んだ ology の Generality への統合
- 機能分化と連携下での医学教育のあり方

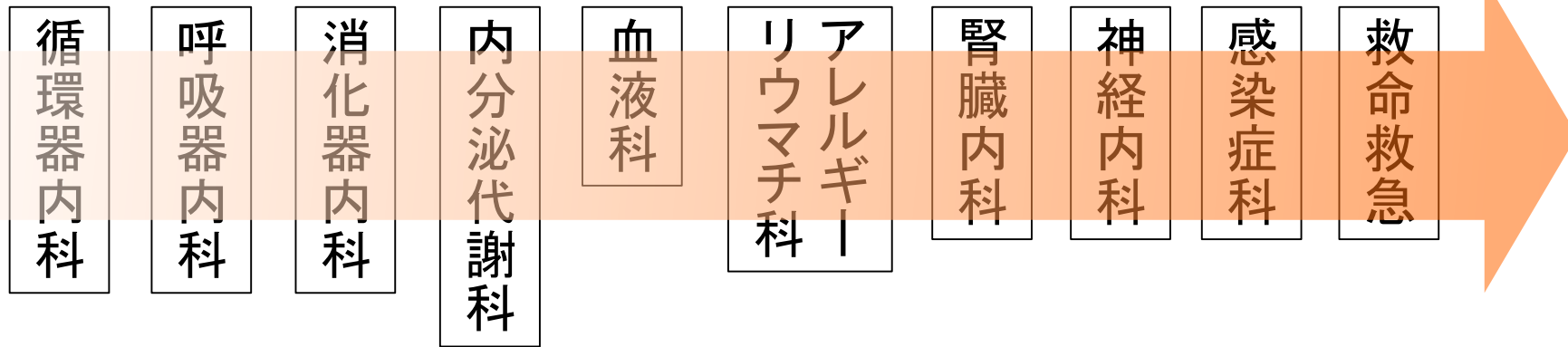
教育の場の問題

理想の内科医像- 医学教育の立場から – Generality と Specialtyの調和

- ① 医学教育における背景と課題
- ② 課題への取り組み
- ③ 生涯キャリアからみた Generality と Specialty

教育の場・ologyのGeneralityへの統合

方法1: ローテーション研修



方法2: 総合内科での実習・研修

総合内科

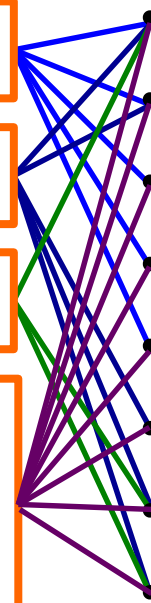
- 複数の疾患を有する患者
- 診断の困難な患者
- 救急対応が必要な患者
- 一般内科外来での診療

臨床推論

老年医学

救 急

初期対応
慢性疾患
の管理



感染症

腫瘍性疾患

自己免疫性疾患

特発性疾患

医原性疾患

変性疾患

代謝性疾患/中毒

血管性疾患

教育の場：取り組み

1982年 地域家庭診療センター設置

2009年 総合診療部門

2013年 総合診療部門 ⇒ 総合診療内科：総合診療部門・消化器内科・感染症科・循環器内科：入院18床

内科学講座の支援

2017年 入院診療：総合診療内科 ⇒ 内科総合病棟（消化器内科・循環器内科・腎臓内科・内分泌代謝科・感染症科・総合診療部門：入院24床

内科学講座との協働

自治医科大学附属病院 内科総合病棟

診療・教育・研修体制の構築に
資するものとする

サブスペシャルティー

循環器内科

呼吸器内科

内分泌代謝科

アレルギー
リウマチ科

消化器内科

腎臓内科

血液内科

神経内科

感染症科



迅速なコンサル
テーションが可
能

診断され専門的治療が必
要な患者は専門科に移る

期待される効果：

- ・総合内科として高いレベルの診療・研修
- ・迅速な問題解決

内科総合病棟

病棟責任者：内科学講座の代表
運営責任者：総合診療内科科長



サブスペシャルティーからの派遣医師
(3～6か月交代)

+

総合診療内科の医師が診療



J1, J2, S1-3を診療チームに配置し総合内科研修を行う

診療対象/教育・研修目標：多臓器疾患患者，未診断・診断困難患者，救急患者を主に
診療し，問診，身体診察，診断の基本を学ぶ場とし，総合医としての教育・研修を行う。

各科に紹介されたものの未診断，ベッドが
見つからない場合に内科総合病棟への入
院を考慮する

期待される効果：

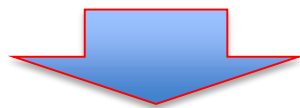
- ・救急・紹介患者への迅速な対応が可能
- ・地域医療連携の円滑化
- ・診療科，ベッド決定への労力の軽減

各科外来＋救急外来



外来診察実習の場の設定

M4 BSL 外来診察実習
附属病院 総合診療内科外来



新小山市民病院 内科・総合診療科外来＋在宅診療見学

医学生	火	水	木	金
小山太郎	外来/病棟	外来/在宅	外来/病棟	外来/病棟
下野 緑	外来/病棟	外来/在宅	外来/病棟	外来/病棟
栃木花子	外来/病棟	外来/病棟	外来/在宅	外来/病棟
関東太郎	外来/病棟	外来/病棟	外来/在宅	外来/病棟

医学生の実習評価から

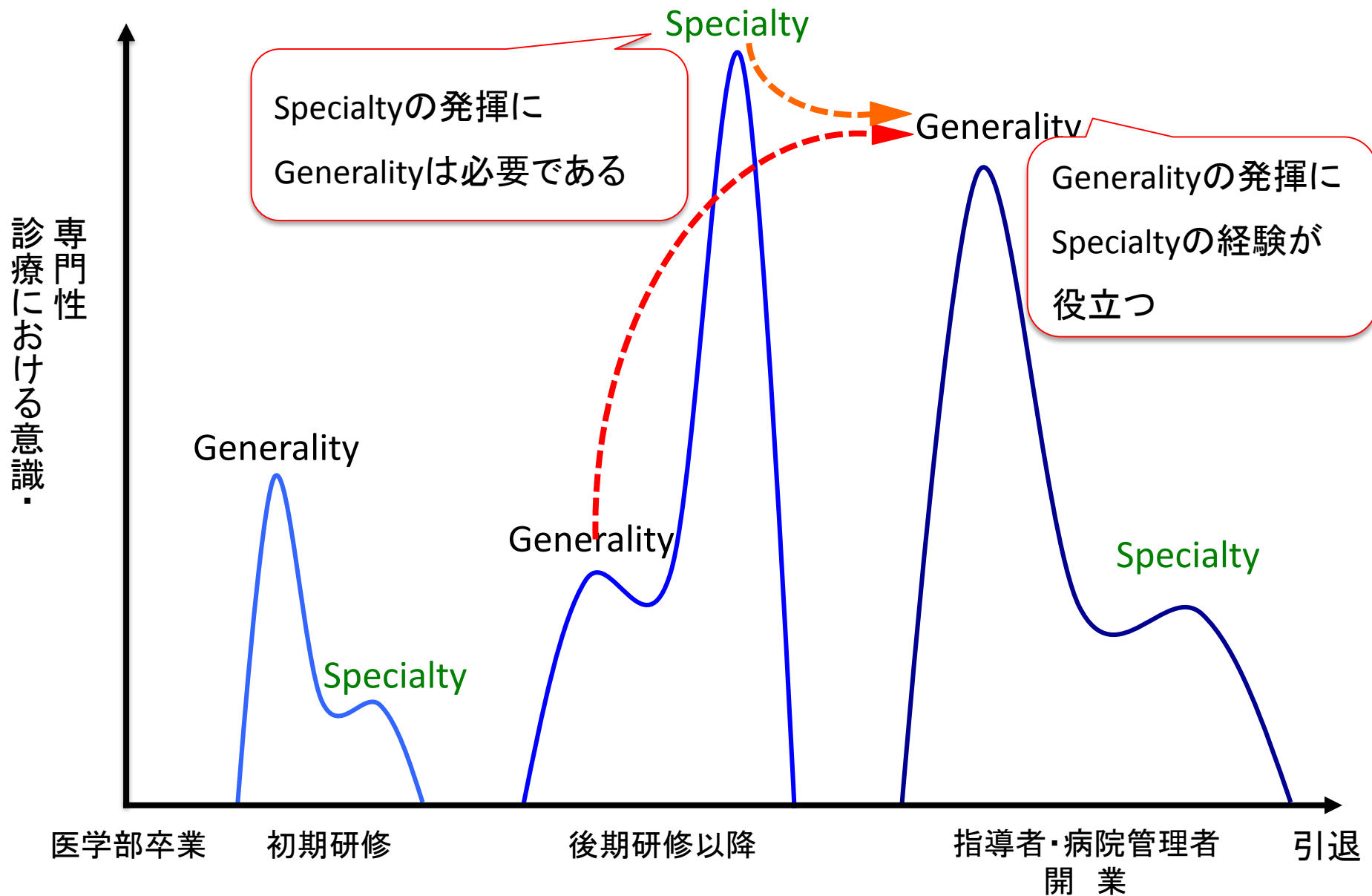
- 外来実習ではコモンな疾患を診ることができました。
- プライマリ・ケアを重視した面接・身体診察を実際に経験できてとても有意義でした。
- 大学病院の診断と治療に重きをおいた医療では見えなかった家族も含めたケアというのが理解できた。
- 寄りそうということが大分わかった。



理想の内科医像- 医学教育の立場から – Generality と Specialtyの調和

- ① 医学教育における背景と課題
- ② 課題への取り組み
- ③ 生涯キャリアからみた Generality と Specialty

医師の生涯キャリア:



まとめ

- Generality と Specialtyは対極にあるものではない
- Generality と Specialtyの調和には、医療需要・制度を考慮し、教育の場・教育手法を見直す必要がある
- 生涯キャリアに応じた役割がある
- 専門性を有しながらも臓器横断的診療マインドを保つことは理想である